（別紙4）　　平成　23　年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3393800036		
法人名	株式会社セラヴィ		
事業所名	グループホーム咲くら		
所在地	岡山県久米郡美咲町小原1681－3		
自己評価作成日	平成23年9月28日	評価結果市町村受理日	平成23年9月29日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	株式会社ハートバード
所在地	岡山県倉敷市阿知1-7-2-803 倉敷市くらしきベンチャーオフィス7号室
訪問調査日	平成22年10月20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

・「5Sの心」を基本として、入居者の「安心・安全」をモットーとした支援を行う。
・生活環境面での清潔・清掃の充実に加えて、一人一人の生活状況を把握したきめ細かな支援を行う。
・家族との連携とコミュニケーションで入居者との信頼関係を深める。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

平成23年4月に開設された新しい事業所で、介護経験の浅い職員も多いが、整理、整頓、清潔、清掃、躾の5Sの心が基本であるとする事業所の教えを職員が理解し、毎日の業務に取り組んでいる。いつも笑顔を絶やさず明るい職員に囲まれ、利用者はゆったりと落ち着いて過ごしている。清掃も行き届き、清潔でさっぱりとした空間が維持されている。
職員間のチームワークが良く、経験の長い職員が新しい職員をサポートし、組織全体としての風通しが良い。そして、業務マニュアルや記録類の文書がきちんと整備されている。新しく加わった職員でも、何をやるべきかがマニュアルやチェックリストでわかり、一定レベルの業務が早い段階でできるようになっている。細やかな記録から、利用者のそれまでの様子がわかると共に、ケアの内容をどのように文書化して残すかが学び取れる。

Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）	○	1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	開設以来の基本理念がある。 廊下に掲示して、職員会議で話し合い共通認識と理解をしている。 地域や家族との交流を通して安心安全な日常生活を送ってもらえるよう心がけている。	利用者の生き生きとした表情から、理念で謳われた「生きがいと安らぎのある暮らし」が実現できているのがわかる。会議時の勉強会や「一人の入居者に5分間のコミュニケーション」といった月間目標で、理念を具体化して、全職員で取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の催し、買い物等を通じて利用者が地域になじめるような機会を作る。 グループホームの行事に地域の有志の参加を頂き交流に努めている。	代表者の自宅が近く、事業所開設以前から地元との付き合いが深い。神社の祭りの時は、駐車場が神輿の御旅所となる。事業所の行事に地元の人々を招待したり、小学校の運動会見学や買物に利用者と共に出かけている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	この地域で必要なことは何かを話し合い、また要望があれば認知症等に関する講座に出向いて行きたいと思っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催し、地域からの代表者の方々、利用者及び家族の代表者からの率直な意見を聞き、改善が必要な点については話し合いをしている。	参加者との盛んな意見交換を通じ、また、利用者も加わることで、行政や地域の人は事業所への理解を深め、良き支援者となっている。退職した教育関係者を委員に加え、学校との交流が維持できるような工夫もしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	入退所状況、事故発生等の報告 問題事例等があれば、その都度報告・相談して情報の確認や指導を受けるようにしている。	運営推進会議などを通じて、町の保健福祉課長や地域包括支援センターとの関わりを深め、込み入った相談でも、真摯に対応してもらえる。地域の高齢者が安心して暮らせるよう、互いの協力体制が築けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「身体拘束のない施設づくりガイドライン」を基に、どのようなことが身体拘束になるかを説明し、機会ある毎に身体拘束はしないことをスタッフに伝え、介護の方法を工夫検討している。	身体拘束は見られない。国道に面しているため門扉のみ施錠しているが、玄関は開錠され、職員の見守りと人感センサーにより、敷地内は安全に自由に歩き回れる。	経験の浅い職員に対し、どんなことが身体拘束になるのかをきちんと理解させ、ケアに対する意識付けの徹底を期待したい。また、センサーの音に慣れ過ぎていないか、再確認を期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	どのようなことが虐待になるのか、管理者が研修等を受講し、それを持ち帰りスタッフ全員の会議を通して指導する。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者が勉強会において権利擁護については行ったが、後見制度については今後において学ぶ機会を設けようと思います。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時に説明し、納得いただいた上で契約書に署名押印していただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入所時に苦情解決体制及び、相談窓口の説明と、意見箱（受付方法）等の設置の状況を説明している。 入居者とは日々の会話の中から聞き取り、家族とは面会時に話を聞くようにしている。	利用者から出た希望に応えられるよう、工夫している。家族の来訪時には、時間のある限り、一対一で話し、意見には耳を傾け、解決を図っている。運営推進会議のメンバーで構成する第三者委員会もあり、家族にその存在を知らせている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議で意見・要望等を聴き、スタッフ全員で改善策を話し合っている。	普段から代表者や管理者に相談しやすい雰囲気が作られ、会議でも意見や提案が言いやすい。例えば、連絡ミスに対しては、全職員にもれなく伝わるよう、連絡帳の利用方法を改めるなど、職員の意見を取り入れた改善が着実に進んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年齢、男女を問わずスタッフの勤務態度や実績等を評価し報酬に反映させていく。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	OJTの実践により、日々その場で指導教育し、各機関の研修等に随時参加させている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他の施設に研修実習を受け入れてもらい交流の機会を作りサービスの質の向上につなげている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	出来るだけ事前に見学等を通じて情報を収集し、環境の変化に対応できるよう配慮している。 入所時に、本人に寄り添い話をする中で出た言葉をサービス計画に反映させるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約までに面談、訪問等により、家族の方の思いを共有し要望等を聴き、家族の意向に添ったサービスが提供できるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメント等で、環境が変わることに対して、本人に起こる変化等、家族とともに受け入れ一緒に考えていけるよう支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者をそのまま受け入れ、生活のパートナーとして助け合いながら生活していけるような雰囲気作りを心がけている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者に対しての気付き等があれば、家族への電話や、来所時に話し合いをもち一緒に考えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	生活歴のアセスメントから会話の中で意図して取り上げる等を心がけて支援している。 また、地元周辺のドライブや地域行事への参加をしている。	家族の来訪を促す配慮をし、実際に利用者一人あたり平均して月数回の面会がある。家族の協力を得て、今まで住んでいた家で半日程度過ごす試みも実施している。生い立ちなどを「バックグラウンド」として文書化し、馴染みの把握に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人一人に同じように（平等に）声掛けし、みんなで助け合っていけるような関係の構築に努めている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院等で契約が終了しても、支援に満足していただいたかを大切にしているので、その後の本人及び家族との繋がりを保つようにしている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の思いを聴き、ありのままを受け入てあげ、その人らしく生活できるよう支援している。	明確に意思表示できる利用者が多く、衛生面に気をつけながら、できる限り意向に反しないようにしている。今までの生活や嗜好などを本人や家族から収集し、どうすればその人にとって居心地良くなるかを検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族の方に生活歴の記入をお願いし、趣味や呼び方、嫌いなことや物等把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の生活スタイルを大切にした支援を心がけている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアする中で気になった点について申し送りをし、スタッフ全体会議等で話し合い情報を共有している。	本人や家族の意向をくみ取って介護計画に反映している。利用者ごとに日々の観察が詳細に記録され、会議でもケアの方向性が話し合われている。しかし、それがモニタリングや次回の計画に活かしきれていなく、やや単調な介護計画となっている。	介護計画を軸とした視点を、日々の観察に盛り込むことで、利用者の些細な変化や介護目標との差異を明確にし、次回の計画に反映できるよう、期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活の中で、統一したケアが出来るよう申し送りノートを活用して、必要とした支援を実施している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の希望に応じ外部からのサービスを取り入れている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ホーム隣の理髪店の利用、地区の消防団に参加していただき火災避難訓練実施、地区のボランティアの訪問、小学校の運動会の見学等を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族の希望に応じた対応をしている。	近所にある協力医での受診であれば職員が付き添えるため、入居時にほとんどの利用者や家族が、便宜性や安心面から、かかりつけ医をその協力医へ変更した。従来のかかりつけ医を継続する場合、家族から必ず受診報告を受けている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	変化があった場合は、かかりつけ医に受診、又は相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時情報提供を行い、入院中も家族・ドクターを含めたカンファレンスを実施。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時にターミナルについて説明している。	看取りはしない方針であり、そのことを利用者や家族にはあらかじめ伝えている。しかし、終末期が近づいた場合、家族と医師を交えて話し合い、家族が納得する方向を共に考えていく予定である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応については、マニュアルを基に勉強会で行っているが、実践的には十分な対応が出来ていないので検討していく。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	深夜火災や災害をを想定した避難訓練の実施に地域消防団・近隣住民の協力体制を築いている。	消防署の協力を得て、利用者も参加した夜間の避難訓練が実施された。その結果、どの点を整備・改善すべきかが明確化したが、緊急時の対応や避難方法などは全職員の熟知には至っていない。	避難訓練時だけでなく、日頃から定期的に緊急時の連絡方法、避難経路や消火器の場所などを職員と共に確認し、全職員への徹底を期待したい。

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の生活歴を把握し、その方に応じた対応、言葉がけをするようにしている。又、利用者の個人情報を含む書類は事務所の施錠の出来る保管庫で管理している。	どの職員も笑顔で目線を合わせて利用者に接し、積極的に感謝の言葉を発していた。、本人が心地良く感じる呼び方や言葉がけの方法を家族とも相談し、一人ひとりに合わせて行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	強制的でなく、自分から動けるような支援が出来るようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	声掛けはするが、個人のペースを尊重して強制しないケアを心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	出来るだけその日に着る服を選んでもらい、鏡を見ていただいたりして身だしなみを整えてもらうよう支援している。 本人の希望に合わせ理髪店を利用できるようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食べる時間や、好み等を把握して美味しく食事をしてもらえるよう支援している。 出来る人、やりたい人には一緒に食事を作ったり、後片付けに参加してもらっている。	必ず職員が検食し、利用者の反応と共に記録するので、安全を確保でき、献立や調理の質向上につながっている。朝食時間は各人に合わせている。 配膳や後片付けを積極的に手伝う利用者がいる。 職員も一緒にテーブルを囲み、楽しい雰囲気を盛り上げている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	月1回の体重測定の実施。 体調及び個々に合わせたメニューで食事提供をしている。 残食チェックや、水分摂取量を記録して管理している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの実施。 ポリデント洗浄を毎晩実施。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄サインを見逃さない支援と排泄チェックを実施している。	排泄チェック表の活用と、利用者ごとに異なる、わずかな兆候を見逃さず、さりげなくトイレ誘導している。昼夜問わず、おむつを使用する人は一人もいない。また、すっきりと清潔なトイレが維持されている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	昼食前の運動と水分摂取、ヨーグルトや果物を提供し、自然排便が出来るよう支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴前に、本人の意思を確認してから入浴するよう支援している。 入浴前、バイタル確認。	1日おきの入浴で、基本は午前中となるが、本人の希望と職員の人数により、午後や夕方も対応している。職員は安全面に細心の注意を払いつつ、世間話をしたり、一緒に歌ったりして、利用者が湯船で温まって寛げるよう努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入所前の生活スタイルの把握。 夜間の睡眠状態に応じ、昼間休息出来るよう声掛けする。 安眠できる体制づくり（時間・寝具・寝衣等）の支援。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	与薬マニュアルに従い、食後、名前を確認して服薬支援。 服薬チェック表にて確認。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	菜園での野菜・花作りをしてもらっている。 一人一人に応じて参加出来る事を一緒にしている。（食器拭き・調理等）		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候、体調を考慮して、散歩や買い物、ドライブに出掛けている。	利用者によって時間や日を変えながら、買い物などに出かけ、すべての人が月1～3回程度、車で外出できている。毎日庭を散歩する人もいる。敷地内には菜園もある。食材の買い出しに同行してもらうなど、外出機会を増やそうと努力をしている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持っていないと落ち着かれない方に対しては、家族と話し合い持っていただいている。 本人の希望時、家族に相談し了承後立て替えて後日請求している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望時、家族に電話をかける支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	温度・採光・換気等の環境整備をしている。 居室内は、入所前の生活スタイルを取り入れ落ち着いて過ごせるようにしている。又、居室の担当者を決めて清潔で過ごしやすい空間作りを支援している。	皆が集まる南向きの食堂談話室は、大きな窓から陽光が注いで明るい。額に入った絵がアクセント的に飾られた壁、木目調で揃えられた家具、常に清掃と整理整頓がなされた空間は、清潔でさっぱりとし、落ち着いて過ごせる。一角にある畳の間では、利用者がおしゃべりをしながら寛いでいた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	畳コーナーを設け、休みたいときに横になれるようしている。家族の希望を取り入れ個人用のリクライニングを置いている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時には、本人や家族と相談しながら居室内の配置（ベッド・タンス等）をし、落ち着いて過ごせるように支援している。	各人がベッド、たんすや棚など思い思いのものを持ち込んでいる。カーペットを敷き、その上の座椅子でテレビを見て寛いでいる人もいた。利用者ごとに担当する職員を決めて、衣類の整理整頓の手伝いなど、清潔で寛げる場の維持に努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	出来る事、出来ないことの見極めを行い、個人個人に合わせ自立できるよう声掛け支援をしている。		